

国際看護研究会 NEWSLETTER

No.72



2014. 1. 15 発行

本号の内容は以下のとおりです。

- | | | |
|------------------------------|-------|------|
| I. 運営委員会報告 | _____ | p. 1 |
| II. 第 71 回国際看護研究会講演会報告 | _____ | p. 1 |
| III. 国際看護研究会第 71 回看護研究会講演会報告 | _____ | p. 1 |
| III. 第 72 回国際看護研究会講演会のお知らせ | _____ | p. 4 |
| IV. 国際看護研究会第 17 回学術集会のお知らせ | _____ | p. 4 |
| V. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より） | _____ | p. 4 |

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

I. 運営委員会報告

総会以後運営委員会の開催はなく、次回は 2014 年 3 月 15 日（土）開催の予定である。

II. 第 71 回国際看護研究会講演会報告

第 71 回の講演会は 2013 年 12 月 21 日（土）に国際協力機構研究所（JICA 市ヶ谷研究所）202B 号室にて開催されました。講師は宮井美津子氏（元 JICA シニアボランティア）より『看護管理』に 5 S カイゼン手法を導入して」のテーマでご講演いただきました。

講演抄録

テーマ：「看護管理」に 5 S カイゼン手法を導入して

宮井 美津子 元 J I C A シニア ボランティア

2011年3月～2013年3月まで南太平洋にあるバヌアツにシニアボランティアとして赴任した。バヌアツは人口の約80%以上の人々が離島であり僻地に住んでいる。そのために保健医療施設へのアクセスが非常に悪い。医療施設の老朽化や機材などの不足、十分な訓練を受けた医療従事者の不足、医師は首都や、州の病院に数名という状況である。離島では急性期疾患は看護師が中心に対応し、治療よりも予防に重点をおき、母子保健を中心に看護職が地域保健医療のリーダーとして働いていた。特に看護師の高齢化と絶対数の不足が問題になっていた。



看護学校からの活動要請は「看護倫理と看護管理」であった。JICA 協力隊員である看護師のボランティア活動を見て、日本の看護師は質が高いとのことで今回の要請に繋がったという。まず、自分に何ができるかカリキュラムの内容を見直し、看護管理「リーダーシップとマネジメント」について3年生の前期に30時間担当することにした。特に「看護の質」を考えるために「5 S カイゼン」技法を導入した。結果として「5 S カイゼン」は保健医療の現場で働く看護師達に「日本人の働き方や倫理観」の紹介になったのではないかと思う。イギリスとフランスの共同統治から独立して30年。バヌアツの人々にとって組織的に働くとはどういうことか、チームワークとはなにか理解するのが難しいようだった。看護学校の校長と教員、実習病院（バヌアツ中央病院）の看護部長や師長とも話し合いながら看護管理の授業の準備を進めた。

「5 S カイゼン」とは途上国での保健医療サービスとして現場の保健医療施設の改善の手法である。5 S とは5つの日本語をローマ字表記にしたときの頭文字をとったもので職場環境、業務内容の向上のためのツールである。

途上国の多くの医療施設では資金や人材が不十分で保健医療サービスができていない現状がある。しかし本当に資金や人材不足だけが問題なのか。資金や人材が潤沢にあれば適切なサービスを提供できるのか。というということに疑問を投げかけ、JICA は既存の資源を最大限に活用して保健医療サービスの質の向上を図る取り組みを「きれいな病院プロジェクト」として2007年から取り組んでいた。（JICA 保健人材開発強化プロジェクトのレポートから引用）この資料を参考に看護管理にモニタリングの方法を導入した。

「質とはなにか」を説明するのに「5 S カイゼン」の考え方はシンプルで効果的だった。授業では「看護の質」で使う言葉を定義した。質「Quality」とはなにか。効率的、効果的とはなにか。整理「Sort」・整頓「Set」・清潔「Shine」・清掃「Standardize」・躰「Sustain」

について説明し、特に「躰」は「sustain (持続可能にする)」プラス「safety」にした。看護管理の基本は働く環境と患者(クライアント)の安全への配慮が基本。実習病院の看護部長や師長と共に講義とグループワークを展開した。2年間で3グループの学生達に「看護管理」を教えることができた。彼らはよく理解し、病院実習や地域実習にいて「カイゼン」を実習現場で実践していた。バヌアツの未来を担う看護師達がプロフェッショナルとして、また保健医療の担い手として質のカイゼンを理解し継続してほしいと願っている。



Ⅲ. 第 72 回国際看護研究会講演会のお知らせ

日時：2014 年 3 月 15 日（土）13:00~15:00

会場：国際協力機構研究所(市ヶ谷 JICA 研究所) 203 号室

(東京都新宿区市谷本村町 10-5)

テーマ：災害時の国際医療支援活動の経験

講師：石井美恵子氏（北里大学看護学部 臨床看護学准教授）

<講演概要>

石井美恵子氏は、国際的な支援を必要とする大規模災害時に JICA 国際緊急援助隊医療チーム登録員として、また認定特定 NPO 法人災害人道医療支援会のメンバーとして、これまでに幾つかの災害支援活動を経験してこられました。

経験を記述し、省察を繰り返しながら災害支援活動における看護のあり方や看護師のコンピテンシーについて検討してこられた概要について、お話しいただくことになっております。

皆様のご参加をお待ちしております。

Ⅳ. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

いつも本研究会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

1. 2013 年度の会費をまだ納めていない方は、お振込をお願い致します。

研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費（2 千円）により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。また、事務整理の都合上、振込用紙に会員番号もご記入をお願いします。

年会費振込先：国際看護研究会 ゆうちょ口座番号 00150-6-121478

2. 国内外に転居された方もいらっしゃるかと思います。国際看護研究会では経費節減のため、NEWSLETTER の送付にはメール便を利用しておりますが、最近転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。海外にも NEWSLETTER をお送りしています。

転居された方は研究会事務局 E-mail(kokusaikango@iris.ocn.ne.jp)あてに新住所をご連絡下さい。

- NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。
- 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい。
- 第 16 回学術集会抄録の残部があります。ご希望の方はその旨明記の上、抄録代として 500 円、郵送料として 80 円の合計 580 円分の切手(80 円までの小額切手でお願ひします)と返送先を書いた A4 サイズ用の返信用封筒を事務局までお送りください。

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、ニュースレターの記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします

JSIN Newsletter